

報道関係者各位

アットホーム株式会社  
応用地質株式会社

## 地盤情報をわかりやすく可視化 地盤リスクと補強工法が想定できる「地盤情報レポート」を提供開始

アットホーム株式会社(本社:東京都大田区、代表取締役社長:鶴森康史 以下アットホーム)と応用地質株式会社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:成田賢 以下応用地質)は、地盤情報を分かりやすく可視化するサービス「地盤情報レポート」を共同開発、6月19日(水)よりアットホーム加盟店に提供を開始しました。

本サービスは小規模建築物を対象に、本来地盤調査によって明らかになる地盤の状態を事前に推定し、分かりやすく解説するレポートを作成するものです。

### 【「地盤情報レポート」とは】

「地盤情報レポート」は地盤、地質調査のパイオニアである応用地質が、実際の地盤調査データを基に“3次元地盤解析システム”を用いて作成した3次元地盤モデルを活用して「地盤の状態」を推定し、そこから戸建て住宅などの小規模建築物の建築や建て替えを想定した際の「地盤リスク(沈下・液状化のリスク)」、さらに沈下に対する「補強工法」などを総合的に解説するものです。本レポートは現地調査を行わず土地の概況を推定します。すでに住宅などが建っている土地についてもご利用いただけます。


### 「地盤情報レポート」イメージ

#### 地盤に関する情報 (まとめ)

**総合判定** 沈下および液状化のリスクがあります。

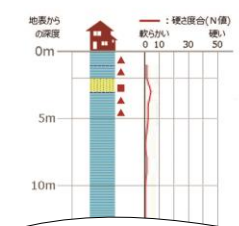
※小規模建築物(戸建て)を対象に判定しています。  
※地表から5mまでの地盤の状態をもとに下記①~④の結果から、沈下および液状化のリスク判定を行っています。  
※実際の地盤調査結果と異なる場合がございます。

対象地 **東京都〇〇区××**



出典: 電子地形図(タイル)、電子国土基本図(オルソ画像) (C)

**簡易柱状図** 地中の状態



地表からの深度 0m, 5m, 10m

—: 硬さ指数(N値) 数少ない 0 10 30 50

—: 硬い 濃い

**判定** 地盤・地形の状態

【①地盤の支持力】  
地盤の支持力(地表付近) 軟弱 やや軟弱 やや良好

【②地盤状況: 沈下に関する地層】  
●: 腐植土層/圧密沈下層の有無 有  
▲: 軟らかい粘性土の分布 有

【③地盤状況: 液状化に関する地層】  
■: 緩い砂質土の分布 有  
□: 想定地下水分布範囲 有

#### 地盤に関する情報 (想定工法)

**想定工法 (参考) 沈下対策: 「鋼管杭」、液状化対策: 別途専門家へご相談ください**

※総合判定を基に地盤補強工法を想定しています。  
※基礎・改良工法の選定や液状化対策については、現地調査を行うなど別途専門家へご相談ください。

工法	必要支持力	直接基礎+地盤補強工法		
		直接基礎	表層改良	柱状改良
木造2F	20~30 kN/m <sup>2</sup>			○
木造3F	30~40 kN/m <sup>2</sup>			○
軽量鉄骨造3F	40~50 kN/m <sup>2</sup>			○

■ **想定柱状図から**

地表付近の地盤の状態 軟弱

軟弱地盤が地表から深度 8m以深に分布

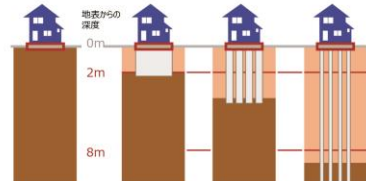
層厚の不均一性が ない

■ **地形から**

盛土地・埋立地 該当する

明治期の低湿地 該当する

地形分類 干拓地



**<凡例>**

- : 良好地盤
- : 軟弱地盤
- : 直接基礎
- : 補強部分

戸建てなどの小規模建築物を支える地盤  
戸建てなどの小規模建築物を支えられない地盤  
「布基礎」または「ベタ基礎」などの部分  
セントやパイプなどで補強する部分

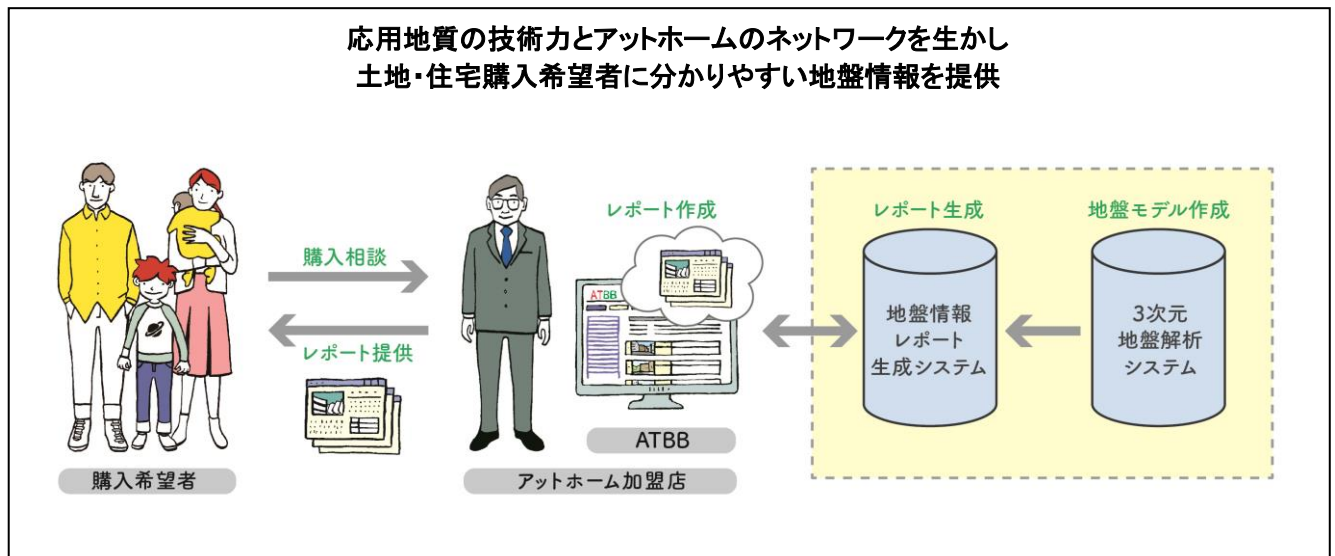
参考資料: 全国地質調査業協会「宅地地盤調査マニュアル2014」よりイメージ化

## 【サービス概要】

「地盤情報レポート」はアットホーム加盟店が不動産業務総合支援サイト「ATBB(アットビービー)」を介して地盤情報を分かりやすく解説するレポートを手軽に作成できるサービスです。本サービスを活用することで、アットホームに加盟する不動産仲介会社やハウスメーカー・建築業者は土地や住宅の仲介、仕入れの一次判断や実地調査前の机上調査業務を効率的に行うことができます。

また、地盤についての専門的な知識を持たない土地や住宅の購入希望者にも、作成したレポートをそのまま提供できるように、基礎知識の解説も加えています。

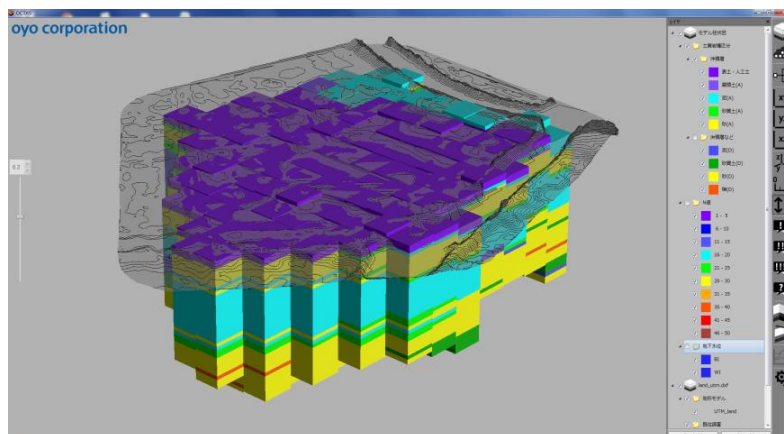
## 【不動産仲介時のサービス利用イメージ】



## 【“3次元地盤解析システム”について】

“3次元地盤解析システム”は、国や自治体によって公開されている実際の地盤調査データを地点ごとに整理し、各データの整合性を確認しながら近隣データと比較、同じと判定される地層をつなげ、データがない区間を地域特性や地形の特徴も考慮して補間したものです。

応用地質が開発した“3次元地盤解析システム”は、道路・鉄道などのインフラ企業や建設会社、設計会社、石油会社他多数の企業において既に活用されています。



3次元地盤解析システムにより作成された3次元地盤モデル(イメージ)

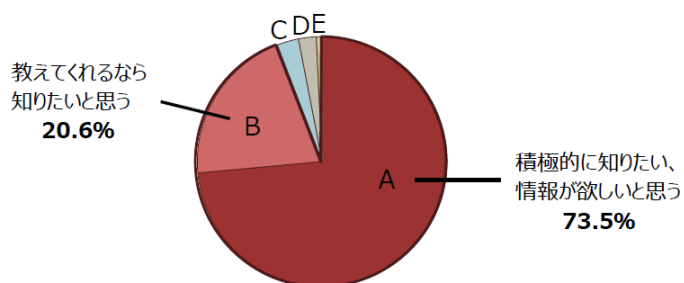
【市場ニーズと開発の背景・目的】

近年、地震に伴う液状化の問題や、複雑な地質構造に起因する建物の施工事故の報道などにより、地盤に関する社会的な関心が高まっています。アットホームが行った調査では、戸建て住宅を購入した、または購入を検討している人のうち「購入前に地盤情報を知りたい」「教えてくれるなら知りたい」と考えている人は 94.1% (図 1)、地盤情報の有無が購入に影響を与えると考える人は 89.1% (図 2) に上ります。しかし、不動産取引の現場では地盤に関する情報を提供するノウハウやツールがなく、ニーズに対応できていないのが現状です。

アットホームと応用地質はこうしたニーズに応えるために、地盤情報を分かりやすいレポートとして提供する「地盤情報レポート」を共同で開発し、購入希望者が安心して検討、決断できる環境づくりを目指しました。また、本レポートでは購入希望者が特に気にしている「地盤の強さ」、「液状化のリスク」(図 3)などの情報に加え「想定される地盤補強工法」の情報も提供しています。

<図 1>

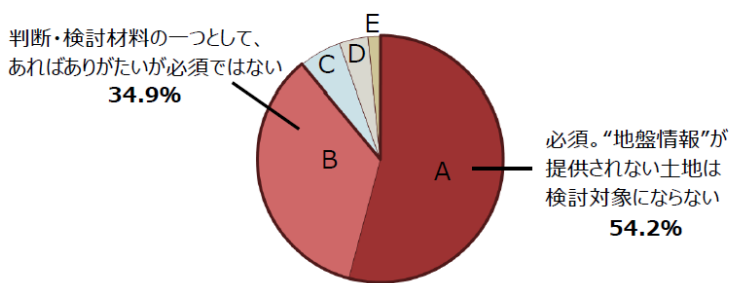
Q. 購入前に地盤情報を知りたいですか？  
(回答者数:393 名 回答形式: 択一)



選択肢	回答率
A 積極的に知りたい、情報が欲しいと思う	73.5%
B 教えてくれるなら知りたいと思う	20.6%
C よくわからない	2.8%
D 地盤情報は知らなくても構わない	2.3%
E その他	0.8%

<図 2>

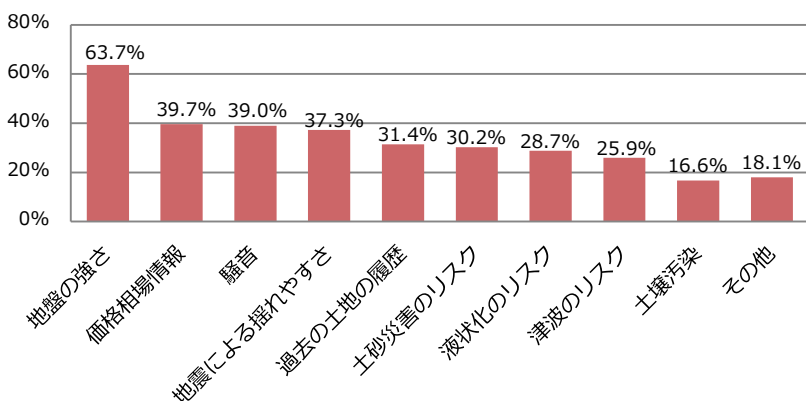
Q. 購入する時、「地盤」の情報はどのぐらい購入に影響を与えますか？  
(回答者数:373 名 回答形式: 択一)



選択肢	回答率
A 必須。“地盤情報”が提供されない土地は購入対象にならない	54.2%
B 判断・検討材料の一つとして、あればありがたいが必須ではない	34.9%
C 地盤情報の有無は購入には影響しない	5.6%
D よくわからない	3.8%
E その他	1.6%

<図 3>

Q. 購入時に「気にする」「気にした」ことはどんなことですか？  
(回答者数:421 名 回答形式: 複数回答)



アットホーム調べ 地盤に関する意識調査  
調査期間:2019年5月8日～5月14日  
調査対象:戸建て住宅購入経験者、購入予定者  
調査方法:インターネットリサーチ

アットホームと応用地質は本サービスの普及により、安心してスムーズな不動産取引と、不動産流通の活性化を目指してまいります。また、両社は今後も連携を強化し、不動産業界以外への地盤情報の提供も視野に、さまざまな取組みを進めてまいります。

■アットホームについて

アットホーム株式会社は 1967 年の創業以来、不動産情報サービスのパイオニアとして、不動産情報メディア・不動産業務ソリューション等の事業を通じ、全国 55,000 店以上のアットホーム加盟店をはじめ不動産にかかわる皆さまをサポートしています。これまでの事業に加え、新たに、最新のAI技術・IoTを活用した不動産サービスなどの開発・ソリューション提供事業の強化を図り、業務効率化、不動産業界における社会的課題の解決に取り組んでまいります。

■応用地質について

応用地質株式会社は、地盤および防災分野における調査・コンサルティング業のリーディングカンパニーで、ICT や 3 次元地盤情報を用いた建設事業の高度化に取り組む他、近年は、建設分野以外の民間企業ともオープンソースでのビジネス交流・サービス開発を積極的に推進しています。

【本件に関するお問い合わせ】

■アットホーム株式会社

広報担当: 渡辺 ・ 西山

TEL: 03-3580-7504

E-mail: [contact@athome.co.jp](mailto:contact@athome.co.jp)

■応用地質株式会社

広報担当: 川地 ・ 橋本

TEL: 03-5577-4501

E-mail: [prosght@oyonet.oyo.co.jp](mailto:prosght@oyonet.oyo.co.jp)